# 多様な連携による「心が通う便利な田舎暮らし」の実現に向けて

舞鶴市長　多々見良三

あけましておめでとうございます。

皆さまにおかれましては、清々しく希望に満ちた「新春」をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年は、元号が「令和」に改元され、新たな時代が幕を開けた年であり、舞鶴市においては「ひと・まちが輝く未来創造　港湾都市MAIZURU」を都市像に掲げる第7次総合計画をスタートさせ、次なる時代への歩みを始めた年でした。

第7次総合計画が目指すまちづくりは、本市の豊かな自然、連綿と引き継がれてきた歴史・文化、少し足を延ばせば都会にも行ける立地性などを最大限に生かし、定住人口10万人規模のまちのにぎわいを確保しながら、新たな技術を導入した未来型のスマートなまち「心が通う便利な田舎暮らしができるまち」です。

私が目指す「心が通う便利な田舎暮らしができるまち」とは、先進技術を単に効率化などに活用するのではなく、人と人とのつながりや助け合いを促進する新しい仕組みづくりに生かし、人々が助け合って生活するコミュニティの良さを維持しながら、便利で心豊かに暮らせるまちの実現を目指すものであります。

私はそうした思いから、目指すべきまちの将来像「心が通う便利な田舎暮らし」の実現に向け、若者たちが、舞鶴の未来に夢と希望を持ち、高い志を持って社会に貢献できる人材として大きく羽ばたけるまちづくりを、また、このまちを築き上げてこられた世代の皆さまが生きがいを持って社会で活躍し、心豊かに暮らし続けられるまちづくりを、多様な連携のもとに推し進めています。

こうしたまちづくりへの強い思い、地域を良くしたいという熱い思いは、地域を一つにし、大きく広がっています。

青井地区では、地域を中心に、城北中学校区地域支援協議会、城北中学校、福井小学校の皆さんが、フジバカマを地域の宝物として育てていこうという取り組みを通じて、次代を担う子ども達に地域への誇りや愛着を伝えておられます。

また、中舞鶴小学校の5年生が、総合学習で地域の歴史を学び、地域に昔のような活気を取り戻そうと、和田海岸の清掃活動などを行い、地域の皆さんと共に藤の森公園の再生に取り組み、完成を記念して「藤の森まつり」が開催されました。代表児童の「舞鶴を笑顔あふれるところにしようとの思いで取り組んできました」との挨拶を聞き、子ども達の地域を思う心に胸がいっぱいになりました。

昨年10月に開催された「平和祈念式典」では、若浦中学校の皆さんが、戦後、旧大浦中学校の生徒が舞鶴港へ引き揚げてこられた方を出迎えた時に歌っていた「引揚者を迎える歌」を復活させ、合唱を披露し、歌を通じて、引き揚げの史実と舞鶴の温かい真心を次世代へとしっかりつないでくれました。

南舞鶴地域では、青葉中学校の美術部の皆さんが、今年50周年を迎えられた南福祉協議会の新しい団体旗をデザインされました。考案した生徒たちは、自分たちの考えた団体旗が、将来の南舞鶴地域を象徴するものになることに、誇りと責任を感じていると話してくれました。

私は、このような取り組みが今後さらに広がり、地域の持続的な発展、舞鶴の「元気」につながるようなまちづくりを、市民の皆さんや市内事業所、産官学金労言士などの関係機関・団体の皆さんと共に、多様な連携による、まさに「全員野球」で、持続発展させてまいりたいと考えています。

今後とも、この素晴らしい舞鶴を、次代を担う子ども達により良い形で引き継げるよう、本市が担っている国防や海の安全、エネルギー拠点としての重要性、また、豊かな地域資源や、連携の輪といったものを、正しく理解し、触れる機会をさらに増やすことによって、地域への誇りや愛着を育むことをはじめ、舞鶴で学び、働き、夢を叶え、暮らせるまちづくりを推し進めると共に、先進技術等を積極的に導入し、人と人とのつながりの部分を重視する中で、真の弱者を支え合う「心が通う便利な田舎暮らし」の実現にまい進してまいりたいと考えておりますので、本年も変わらぬお力添えを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

年頭にあたり、市民の皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。